

---

# スノードーム

井沢あや

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スノードーム

### 【Nコード】

N3380A

### 【作者名】

井沢あや

### 【あらすじ】

スノードームに恋した女性の物語。その意外な結末。短めです。

趣味っていうのかな……？あたしがあの半球の硝子を買って求めるのは。一種の衝動でもあり、病的なものでもある。

キツカケは、ほんの些細な事だった。高校時代のクリスマスの甘酸っぱい思い出。

当時大好きだった先輩から初めて貰ったプレゼントが、スノードーム。小さな世界が硝子の中にギュッと詰め込まれてて、揺すると粉雪が舞い上がる。中から雪だるまが私を見つめ返してきて……。

素敵だった。

あたしはそれを大切に、部屋で一番の特等席に飾ったんだ。可愛らしくて、嬉しくって、何時間でも見ていられる気がした。

思えばあたしの病は、この時から既に始まっていたのかもしれない……。

それでも次第にあたしがスノードームを眺める時間は減って行き、先輩とも別れてしまった。

スノードームは、特等席から降ろされて、部屋の隅の戸棚の中へと身を潜めた。

それから何年たった頃かな？片付けをしていたら、あの時のスノードームが出てきたの！久しぶりに見るとやっぱり綺麗で、あたしはついつい見いつてしまった。

結構の間そうしていて、あたし気付いたの。スノードームがもつといっぱいあれば、部屋の中がパツと華やぐんじゃないかって。

早速2、3個増やしてみたら、案の定とても素敵で。あの時のスノードームも更に輝いて見えた。

それで、もっと、もっと増やしていったの。買い物先や旅行先、ついには仕事の途中でもスノードームを見ると買わずにはいられなくなっただわ。

初めは小さな戸棚の上にだけ。だけど次第にそれは机へ、ベッドサイドへ、今まで有ったものを避けて、置ける所なら何処へでも置いて、とうとう壁に専用の棚まで取り付けた。

それでもあたしは満たされない。キラキラ悩ましげに輝くスノードームを買ったことをやめられない！

麻薬の様にあたしにとりつく。

あたしはオフィスにもそれを飾り始めた。初めは『可愛いね』なんて言っていた同僚なんかも、増え続けるスノードームに、嫌悪の表情を隠しきれていない。

ああ、あとは何処へ？

何処へ置けばいいの……？

家中スノードームで溢れかえって、何処を向いても銀世界！あたしはその空間に居るだけで体がとろけそうな位興奮した。

素晴らしいわ。誰にも文句なんて言わせない。

だってあたしは、スノードームを愛して止まないだけなんですから。

「そうでしょう？先生」

「そうだね。ただし、その…、君は行きすぎただけだ」

「分かってくれますか？ふふっ、嬉しい……」

あたしは白い服を着て、優しい先生と向かい合っている。毎日部屋から呼ばれてお話するの。何故かここでは全てが白くて、雪みたいで、美しいんだ。

きつとあたし、スノードームの中の雪だるまになれたんだわ……。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3380a/>

---

スノードーム

2010年10月11日21時10分発行